

## 有害鳥獣から甲佐町を守る 狩猟を通じた「男のロマン」

「有害鳥獣から農作物を守る有害鳥獣駆除隊は、本町の主要な産業である農業を守る要の1つです」と胸を張るのは、甲佐町有害鳥獣駆除隊の福永精一隊長（浅井区）

「最近では、山間部の人口減



甲佐町有害鳥獣駆除隊  
Kousamati yugaityojokujotai

〔町産業振興課〕

の農作物被害の増加を嘆く。同隊は、イノシシ、シカ、サル、カラスなどの農作物に害を与える動物を駆除する活動に取り組む。隊員総勢18人で、本町の農業を有害鳥獣から守っている。

平成26年度には、イノシシ60頭、シカ8頭、カラス20羽、サル2頭を捕獲した同隊。被害に遭った住民などから町への通報で、隊員に出動

要請が掛かる。出動した現場では、まず有害鳥獣の足跡を探索し、いつその現場に来たのか、どの方向に逃げて行ったかを確認。山の中などを「勢子（せこ）」と呼ばれる獲物を追い出す役の隊員が猟犬を使って追い、取り押さえたところで銃やナイフで仕留めて捕獲する。

「駆除隊は、危険な動物を相手にして銃やナイフなどの道具を使うので、安全第一に活動することが重要です。だからこそ、隊のチームワークは必要不可欠です」と、農業を守るために危険と隣り合わせの任務に向かう。

狩猟の魅力を「自分で獲物を捕えたときが1番の醍醐味。仲間同士で集まって成果をたたえ合い、交流を深めるのも楽しみの1つ」と語る。

「現在の駆除隊の平均年齢は約70歳で、高齢化に頭を抱えています」と福永隊長。「山道を歩き回れる体力と根性のある若手の皆さん、元気あふれる中壮年の方に、狩猟を通して自分たちの町を守る『男のロマン』を味わってみませんか」と、山の世界に誘う。

## 広報 こうさ

2015年（平成27年）4月号  
通巻549号